

画一医療

画一医療とは、各患者毎の個人差を考慮せず、マニュアルに従って機械的に治療を行うことです。抗がん剤投与の場合は、身長、体重、体表面積等から計算した投与量を機械的に当てはめます。画一医療では、副作用のコントロールが難しいため、効果の大小よりも副作用の大小が重視されます。その結果、効果が殆どなくても副作用のない薬が重宝されます。

日本では、テイラーメイド医療は普及しておらず、画一医療が幅を効かせています。その結果、欧米ではめったに使われない効果の期待できない抗がん剤が多数使われています。逆に、欧米で使われるような標準治療薬はあまり使われていません。

最終更新時間：2005年06月13日17時10分14秒